

自ら学び、他と協働して課題を解決する生徒の育成

《令和5年度前期との比較》

※評価方法は裏面に記載

＜視点1＞【子供たちが安全・安心に学べる学校】								
具体的な取組	アンケート結果				自己評価	成果と課題及び分析	今後に向けて	
<p>ア いじめ・不登校のない学校づくりの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒会を中心に主体的な活動によるいじめのない学校づくり</li> <li>生徒理解の会・アンケート(毎月)、Q-U調査(年2回)の実施と早期対応</li> </ul> <p>イ 安全教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>危機管理マニュアルの理解・改善</li> <li>計画的な避難訓練等防災教育の実施</li> <li>安全点検(毎月15日)の確実な実施と早期改善</li> </ul> <p>ウ 道徳教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>特別の教科道徳を要とした道徳教育の推進</li> <li>指導方法の改善と評価の工夫</li> </ul> <p>エ 体力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「体力アップ1校1プラン」の実施(目標を持たせた取組の推進)</li> </ul> <p>オ 学校給食を核とした「食育」の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>食教育の実践及び〇〇給食の実施</li> <li>食物アレルギーへの組織的な対応</li> </ul>	生徒	学校は楽しい。	98%	➡	a	4	<p>○「学校は楽しい」と感じる生徒の割合は増えた。 →生徒会活動や各種行事で、生徒を中心に据えた活動としたことで、自分たちで「できた」「やった」という達成感を感じられたのではないかと。 △子どもと保護者との認識の違いがみられる。 ○「自分にはよいところがある」と考える生徒の割合も増えている。 →活躍できる場と周囲から認められる場面が増えたからではないか。</p> <p>○「学校のきまりを守って、生活している」と感じる生徒の割合は増え、学校のきまりを理解し、安全に生活しようとしている生徒が多い。</p> <p>○生徒の98%は「みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある」と答えており、成功体験を経験した生徒が多い。また保護者も、先生が子ども達をよく理解しようとしていると思っている。 △「学校は、いじめのない学校づくりに積極的に取り組んでいる」と考える保護者の割合は、-14%と減少した。 →良いことも含めた保護者との密な報告や連絡が不足しているのではないかと。</p> <p>○保護者の100%は「学校は、生徒の安全を守るために努力している。」と思っている。 △「学校は、定期的に危機管理マニュアルを確認して行動している」と考える教員の割合は、-17%と減少した。</p>	<p>・生徒会活動や各種行事等で、生徒中心の活動の継続的な実施と、振り返りで、互いのよさや頑張りを認める活動を来年も行っていく。 ・教員は保護者との認識のちがいを理解し、良いことも悪いこともこまめに連絡をする必要がある。</p> <p>・保護者と連絡を密に、良いことも連絡し、生徒の活動を伝える必要がある。</p>
	保護者	お子さんは、「楽しそうに学校に行っている」と思いますか。	81%	↓	b	3		
	生徒	困っている友だちがいたら、助けてあげようとしている。	98%	➡	a	4		
	生徒	自分にはよいところがある。	93%	↑	a	4		
	保護者	学校は、親切・思いやりの心を育てようとしていると思いますか。	90%	➡	a	4		
	生徒	学校のきまりを守って、生活している。	95%	↑	a	4		
	教員	学校は、生徒が学校のきまりを守り、安全に生活できるよう指導している。	100%	➡	a	4		
	生徒	みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある。	98%	➡	a	4		
	保護者	学校は、いじめのない学校づくりに積極的に取り組んでいると思いますか。	83%	↓	b	3		
	保護者	先生は、子ども達のことをよく理解しようとしていると思いますか。	90%	➡	a	4		
	教員	学校は、生徒同士のよりよい人間関係づくり(いじめ・不登校の未然防止)に努めている。	100%	➡	a	4		
	教員	学校は、生徒の小さな変化に気づいたときには、すぐ行動している。	100%	➡	a	4		
	保護者	学校は、生徒の安全を守るために努力していると思いますか。	100%	➡	a	4		
教員	学校は、定期的に危機管理マニュアルを確認して行動している。	83%	↓	b	3			

3.8

＜視点2＞【生徒の確かな学びを保障する学校】								
具体的な取組	アンケート結果				自己評価	成果と課題及び分析	今後に向けて	
<p>ア 松波中スタンダードの実践と改善</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>計画に沿った確実な指導と、実践に基づいた計画への改善</li> </ul> <p>イ 学力向上ロードマップ・プランに基づく学力向上の取組推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>対話的で深い学びへの授業改善</li> <li>シンプルな学校研究の推進</li> <li>家庭学習の量と質の改善</li> <li>家庭と連携した基本的な生活習慣への改善</li> </ul> <p>ウ 授業力向上の取組推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1人年2回以上の研究授業の実践</li> <li>指導技術の系統化</li> <li>ICT機器の効果的活用</li> </ul> <p>エ 海洋教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「海洋教育推進事業」の計画的な実施</li> <li>SDGsを意識した体験活動の推進</li> </ul> <p>オ 特別支援教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>専門相談員等の活用</li> <li>校内支援委員会の定期的開催</li> </ul>	生徒	授業の内容はよくわかる。	93%	↑	a	4	<p>○生徒「授業の内容がよくわかる」と回答した生徒の割合が大きく上昇した。 △保護者「(我が子が)授業の内容がよくわかると感じている」と回答した保護者の割合が+69%となった。 →生徒と保護者の意見に大きな差がある。保護者は、「わかる」=「テストで点数が取れる」と思っている可能性があり、点数として結果につなげる事が必要なのではないだろうか。また、一人一人のステップや、それに対する到達度について保護者面談等で説明する必要があるのではないかと。</p> <p>○教員「個々の習熟の状況に応じて、補充的・発展的な指導を行っている」が100%となった。意識して指導している事がわかる。</p> <p>○生徒「毎日、家庭学習の目標時間を守って取り組んでいる」や生徒「五定点を守って生活している」が大きく上昇した。 △保護者「お子さんが家庭学習に取り組む姿勢は、十分だと感じていますか」が40%、保護者「お子さんは、早寝・早起きをしていますか」も52%と低い。 →生徒と保護者の意見に大きな差がある。教員は意識して指導している。各種調査結果を見ると、目標時間や五定点を守れていない生徒が多い。実態把握とそれに応じた適切な指導の継続が必要なのではないかと。</p> <p>○95%の生徒が「がんばりを認め合う場面があり、先生ががんばりをほめたり認めたりしてくれている」と感じている。 △生徒が1日にインターネットを使用する時間が長くなっている。一家庭学習を行う時間とインターネットを使用する時間、5定点を守った生活には密接な関係がある。自律的な家庭生活の改善に向けた指導を継続して行う必要があるのではないかと。</p>	<p>【目標数値:教員「個々の習熟の状況に応じて、補充的・発展的な指導を行っている。」90%】 ・「補充的・発展的な指導」のあり方の具体を共有し、指導をすすめる。 →生徒「授業では、学び合い(対話)」によって、自分の考えが高まっている」の数値を上げることを意識することで、教師が補充的・発展的な指導を意識している事が生徒にも伝わるのではないかと。成果になれば、保護者「授業の内容がよくわかると感じている」の数値も上昇するだろう。</p> <p>【目標数値:生徒「毎日、家庭学習の目標時間を守って取り組んでいる」80%】 ・家庭学習に取り組む必要性や取り組み方、ネットとの上手な付き合い方について、保護者とも連携しながら具体的な指導をすすめる。 →家庭学習の取り組み方や、ネットとの付き合い方など、保護者とも連携して指導を進める必要がある。また、自分で自分をコントロールする力を付けるよう指導する必要があるのではないかと。</p>
	生徒	失敗してもあきらめずに、粘り強く取り組もうとしている。	85%	➡	b	3		
	保護者	お子さんは、授業(勉強)の内容がよくわかると感じていますか。	69%	➡	d	1		
	教員	私は、個々の習熟の状況に応じて、補充的・発展的な指導を行っている。	100%	➡	a	4		
	教員	私は、分かりやすい授業となるよう、ICT機器(モニター・タブレット等)の効果的な活用に努めている。	100%	➡	a	4		
	生徒	授業では、「学び合い(対話)」によって、自分の考えが高まっている。	85%	➡	b	3		
	教員	私は、言語活動を重視し、生徒に説明・記述させる授業への改善をすすめている。	100%	➡	a	4		
	生徒	毎日、家庭学習の目標時間を守って取り組んでいる。(1年60分、2年70分、3年80分)	68%	↑	d	1		
	保護者	お子さんが家庭学習に取り組む姿勢は、十分だと感じていますか。	40%	➡	d	1		
	教員	私は、普段の家庭学習の量や質が改善するように指導している。	100%	➡	a	4		
	生徒	五定点を守って生活している。(起床・朝食・就寝の時刻)	85%	➡	b	3		
	保護者	お子さんは、早寝・早起きをしていますか。	52%	➡	d	1		
	教員	学校は、五定点を守った生活となるよう指導している。(起床・朝食・就寝の時刻)	100%	➡	a	4		
	生徒	家で、インターネットは1日にどれくらい使っていますか。(A:1時間未満 B:1時間～1.5時間未満 C:1.5時間～2時間未満 D:2時間以上)	58%	↑	d	1		
	保護者	お子さんは、インターネットの使用についての「家庭のルール」を守っていますか。	55%	➡	d	1		
	教員	学校は、ネット利用のきまりの必要性や守ることの大切さを指導している。	100%	➡	a	4		
	生徒	学校では、生徒同士でお互いのがんばりを認め合う場面がある。	95%	➡	a	4		
	生徒	先生はがんばったことをほめたり、認めたりしてくれる。	95%	➡	a	4		
	保護者	学校は、「学び合い・認め合い・高め合い」によってお子さんの力をのばそうとしていますか。	90%	➡	a	4		

＜視点3＞【職員が協働し高めあい確かな指導力を育成する学校】

具体的な取組	アンケート結果				自己評価	成果と課題及び分析	今後に向けて	
ア 業務改善の取組推進 ・校務分掌の明確化、平準化と効率的な取組への改善 事案決定システムの改善 ・月2回の定時退校日（第2・4水曜日） ・最終退校時刻（午後7時30分）の徹底 イ 若手早期育成プログラムの実施 ・計画的な実施と内容の改善 ウ 職務規律の向上に向けた取組推進	教員	学校は、教育目標を具現化して、教育活動に取り組んでいる。	92%	🔴	a	4	○若手早期育成プログラムを計画的に実施したこと、また必要に応じた内容でできたことが、教師としての力量の高まりにつながっている。 △業務改善のPDCAサイクルが十分に機能していないことで、業務の効率化につながっていない。 →見直しを持った業務ができていないことが多忙化につながっているのではないかと。	【目標数値・職員「PDCAサイクルを回した業務となるように努めている。」100%】 ・年間行事計画を意識し、早期からの相談・6割提案の徹底。 ・振り返りでの反省や意見を生かした業務となることの徹底。 ・教材研究・担当分掌の業務に従事する時間が確保ができる日課表の見直し。
	教員	学校は、PDCAサイクルを回した業務となるように努めている。	92%	🔴	a	4		
	教員	私は、自らの職責を果たすために、教師としての力量が高まるよう努めている。	100%	🟡	a	4		
	教員	私は、教務の効率化をすすめ、午後7時30分までに退校している。	58%	🔴	d	1		

3.3

＜視点4＞【地域社会の一員として信頼される学校】

具体的な取組	アンケート結果				自己評価	成果と課題及び分析	今後に向けて	
ア 「地域学習」の充実 ・公民館等の地域と連携した体験活動の推進 ・まちの先生を活用した教育活動の企画と実施 イ 家庭や地域とのコミュニケーションの促進 ・定期的な学校公開 ・学校評価、学校関係者評価の実施と活用の充実 ・学校だより等の配布、HPによる情報発信	生徒	地域の人に、自分からすすんであいさつをしている。	100%	🟢	a	4	○生徒はすすんであいさつができています。  ○保護者は、「地域と連携した体験活動」に取り組んでいると感じているが、前期から後期にかけて、その肯定的割合は下がった。（前期に比べて、後期は地域と連携した体験活動が少なかったからではないか） △教員はまちの先生を計画的に活用していく必要がある。  ○保護者は、「学校からの各種便りやホームページでの情報発信は十分である」と感じている。 △保護者は、「保護者との連絡を密にしている」の回答については肯定的割合が下がった。（生徒指導上で気になったことについては、家庭と密に協力して行っていく必要がある。）	・教育計画の中で、まちの先生の活用場面を洗い出し、各学年・各学期1回以上まちの先生を活用した学習活動を計画的に行う。 ・保護者と連絡を密に、良いことも連絡し、生徒の活動を伝える必要がある。
	保護者	お子さんは、すすんで挨拶ができていますか。	86%	🟡	b	3		
	生徒	地域の人・もの・ことから、いろいろなことを学んでいる。	90%	🟢	a	4		
		地域の行事には進んで参加している。	90%	🟢	a	4		
	保護者	お子さんは、地域のよさや大切さを感じていますか。	90%	🟡	a	4		
		学校は、地域と連携した体験活動にすすんで取り組んでいると思いますか。	90%	🔴	a	4		
	教員	学校は、まちの先生を積極的に活用している。	100%	🟡	a	4		
	保護者	学校は、保護者との連絡を密にしていると思いますか。	88%	🔴	b	3		
		学校からの各種便りやホームページでの情報発信は、十分ですか。	100%	🟢	a	4		
教員	学校は、地域・保護者へ、積極的に情報発信を行っている。	100%	🟡	a	4			

＜アンケート集計から自己評価までの流れ＞

- アンケート結果から、それぞれの項目をa～dの4段階に評価する  
 「そう思う」+「だいたいそう思う」が90%以上 ⇒ a  
 「そう思う」+「だいたいそう思う」が80%以上 ⇒ b  
 「そう思う」+「だいたいそう思う」が70%以上 ⇒ c  
 「そう思う」+「だいたいそう思う」が70%未満 ⇒ d
- ①の4段階の評価を、a=4 b=3 c=2 d=1とし、平均を出す

- 以下の基準で平均値から自己評価を行う  
 平均が3.5以上 ⇒ A  
 平均が3.0～3.4 ⇒ B  
 平均が2.3～2.9 ⇒ C  
 平均が2.3未満 ⇒ D

🟢 5%以上増えている      🔴 5%以上減っている  
 🟡 10%以上増えている      🔴 10%以上減っている      ※令和5年度前期との比較

・PTAの委員会で勝手に他の保護者の携帯の連絡先を伝えるのは困ります。改善して下さい。  
 ・子どもの意見を聞かず、否定して自論を押しつける先生がいるので困っています。  
 ・大変満足しております。お忙しい中ありがとうございます。  
 ・小学校のスクールバスを利用したい。  
 ・行きだけでなく、返りもスクールバスに乗れるといいなと思います。  
 ・お世話になっております。今後もよろしくお願ひいたします。  
 ・気にかけて、親身になって声かけをしてあげて下さい。